



第 1211 回例会報告

平成 22 年 2 月 10 日(木) 晴

会長挨拶

会長 長崎政直

八幡文登さん そして 湖浄連

八幡文登さんがお亡くなりになりました。29日に、にわか腹痛を訴えられ、救急車で病院に行かれたそうですが、6時間後になくられたということです。解剖をしてみました、死因の特定には、まだまだ時間がかかるということです。

八幡さんのロータリークラブでの在籍期間は、15年くらいだったでしょう。13期、降幡年度に幹事を勤められ、辣腕振りを発揮、17期には、副会長・クラブ奉仕委員長、21期には国際奉仕委員長としてセブ島支援に尽力されました。近年は、ご病気もあって、ほとんど出席いただけず、ロータリー歴の若い皆さんには印象は薄いかもしれません。25期をもって退会されました。

一度思い込んだらなかなか譲らない、頑固な性格の方だったと思います。それゆえ衝突した会員も少なからずおられるだろうと思います。一度、八幡さんのロータリー観をお聞きしたい、聞かなければいけないと思いつながら、できなかったことを後悔しています。

八幡さんをご縁に、八幡さんに似てなかなか出席してくれませんが、西沢君が会員になり、そこから赤羽さんが会員になり、活躍中と、人のつながりというものはおもしろいものだと思います。八幡さんのご冥福をお祈りいたします。

先週もお話ししましたが、19日に下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会の30周年記念式典が開かれますので、多くの会員の出席を要請いたしました。

思い起こせば、30年前の青年会議所時代、設立に参加しました。前青木町長の時代で、最初は、全国的な合成洗剤追放運動の下諏訪での組織化が行政主導でされようとしていました。青年会議所では、単に合成洗剤追放ではなく、諏訪湖浄化のための諸活動が構想されていましたから行政からの提案について不満を感じました。会合の席で、町長から「君達、若僧に何ができる？」といったニュアンスの発言があって、当時はそれでも血気盛んだった私は、ムツとして、「恐れながら・・・住民運動、諏訪湖浄化運動は・・・」と発言をしようとした

ら、横に座っていた理事長の、すでに大人だった大澤さんに「まで！！」と押しとどめられた覚えがあります。

そんな行政の態度を見返す意思もあって、湖浄連創立、湖浄連活動には、青年会議所として随分力が入ったものでしたし、今日までの湖浄連の歩みは十分に見返すことが出来たと思っています。

湖浄連では、何年かかけて、最終的に浄化のための活動が10設定され、それぞれ、それなりの成果を収めてきて、今日の諏訪湖の状態になっています。

去年あたり30周年を期に、湖浄連も役割は終わった、解散しようという声も浮上したようです。いたずらに会を維持する必要はありませんが、19日には、そのあたりについても答えが見えるのだろうと期待しています。

本日は、湖浄連では考えられなかった諏訪湖浄化の11番目の活動、里山整備についてのさらなる提案がなされます。ご検討よろしくお祈りいたします。

◇幹事報告◇

1. 以下の文書を受領・配布致しました。

- ①ウィークリー(富士見RC・諏訪RC・大津中央RC)を受領致しました。
- ②下諏訪町ボランティア連絡協議会3月5日開催の総会・研修会パンフレットを配布いたしました。
- ③ロータリー米山記念奨学会米山功労者感謝状を御子柴会員に伝達致しました。

■ニコニコ BOX

24名	28,000円
累計	861,000円
目標額	130万円
達成率	66.2%

■今週のことば

バレンタインによせて札幌雪まつりに行ってきました。皆さん一人一人の顔を思い浮かべながら買いました。いつもやさしく仲よくしていただいております。北原厚子

■出席報告

会員数	35名
出席対象	35名
出席者数	28名
出席率	80.0%
前回修正	88.5%

■次回のプログラム

2月24日

諏訪圏青年会議所
役職者卓話

新世代活動委員会



2. 連絡事項

①元会員八幡文登殿が1月29日夜急逝なされました。故人の遺志により近親者のみにて密葬なされました。



た。情報を得てからの土曜日連絡となったため連絡不行きとなりましたが翌日の日曜日にロータリー関係者にてご自宅に弔問致しました。

②会長挨拶にてふれられている「下諏訪町諏訪湖推進連絡協議会設立30周年記念式典・記念講演会」は次のとおり催されます。2月19日(日)下諏訪総合文化センター 13時開演 15時30分終了

前幹事より

昨事業報告書の作成が遅れています。原稿を提出していただいていない委員長は至急、植松までご提出ください。

植松友一

1211 回例会 里山整備事業パート2

社会奉仕委員会

諏訪湖浄化活動の原点

初代永田会長が創立総会で「諏訪湖を我々を写す鏡として、友愛と奉仕の心深めて行こう」と話し湖の浄化と親睦と奉仕を強調されました。近年は「諏訪湖を心の鏡として奉仕の誠を尽くそう」とも訳されています。

諏訪湖浄化の歩み

湖浄連に参加、多くの活動を共に実施、今後も関わりを深めたいと考えております。

当クラブの発案で、当時5区クラブが共に諏訪湖浄化活動に取り組み、IM宣言盛り込み、各クラブが諏訪湖浄化特別委員会を設置更に諏訪湖浄化基金を創設しましたが、他クラブの理解が続かず目的を果たせず解散しました。

諏訪湖クラブへの会員参加、諏訪湖クラブは当初

「諏訪湖塾」と云った発案もあり、沖野先生の念願が叶い、強力な組織となりました。当クラブから2名の役員が選出されており、諏訪湖浄化に向け共に頑張りたいと思います。

信州大学山地水環境教育研究センターには、当時の所長沖野先生に諏訪湖浄化の勉強会お願ひ、何度となく卓話をいただきました。

水のコンサートは15周年の記念事業で、大変好評でした。

下諏訪中学校とは、「総合学習」の時間を契機に多くの関わりを持つことになりました。

諏訪湖浄化基金は創立9期目の時、念願の諏訪湖浄化を達成させるために創設しました。

湖から里山へ

富士山の湧水は10年かけて地表に湧くと云われており、その間に雨水が最適な飲料水になります。整備された森林は巨大な濾過装置といえます。保水力の高い森林ほど浄化力を発揮します。

整備された森林は木の根元に日が当たり、草や低灌木が生え、雨が降っても水や土砂がいきなり流れ出すことはありません。木の根は枝の広がりと同じになります、広がった根は容易に倒れることはありません。防災にも役立ちます。大気中の窒素やリンは、雨に溶けいきなり諏訪湖に流入します、整備された森林はそれを吸収してくれます。安全な水、綺麗な水は健全な山林で生まれ、整備された河川で更に綺麗になります。荒れ果てた山林はその役目ほとんど果たしません。

里山整備の経緯

19期 諏訪湖浄化活動の延長として、RCで可能な取り組みを検討し、楽しみながら行える継続事業として開始した。

時の御子柴委員長は、楽しみを超えて必要とされる事業とするには、人生活動として取組続けて行く人が必要です。その人を組織として後ろから支える体制を組織化すればどの様な継続事業にも対応できると結論づけております。

20期 下中1年生29名と会員により、森林の下草や枯れ枝の片づけを行う。この年から中学生が参加。21期～25期中学生と会員により苗木の植林を実施、地区補助金18万円を活用し作業器具や草刈り機を購入、「里山を守り育てる会」に寄贈しました。

本年度26期、長期計画をとの指示を受け、楽しみに何かを加え、継続に値する事業を検討しております。

次なる里山整備は

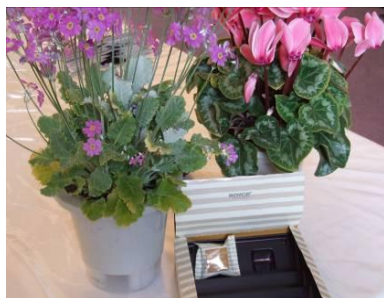
現在の場所は岩村会員の好意で、植林可能な整備をされた後提供をされました。

7年間植え続けて一杯になり植える所を変えなければなりません。現在の場所近くには岩村会員の所有

■ちょっと一休み

うれしいプレゼント

岩村会員から、いつも会場を和やかにしてくれる素敵な鉢植えが、北原厚子会員からバレンタインのチョコレートが、届きました。



今回鉢植えは北原さんに持って帰ってもらいましたがこれでホワイトデーは無しなんてことはないと思います

されている山林が沢山あり、借用することは可能です。今後の植林可能な整備はクラブの費用で実施しなければなりません。

森林での活動は未体験者にとっては、楽しく新鮮な感覚を覚えるものと思います。中学生に好評なばかりではなく、我々会員に取っても、山林での体験は楽しく爽快であります。

森林税を活用した森林整備は、間伐の割合が多くて30～35%で、そこに植林することは不可能です。従って我々の事業に補助金の活用はできません。

現在の場所はブナが生育できる標高ですが、仮に民家の近くに下りてくれば、ブナが育つか解りません。場所を変えることにより、植える木も変わってきます。水源地周辺にブナの林が育てば、綺麗な水の確保や安全な森林づくりに大きな効果があります。

あまり地域の人たちの目に入らない現在の周辺での継続はその効果を期待することはできませんが、今後の里山整備事業(町や県の補助金による整備)の展開によっては現在の場所にも人の出入りが増えことも考えられます。やがて脚光を浴びる場所になる可能性もあります。

目的は諏訪湖浄化

諏訪湖や河川から山に目を向け7年、原点を確認すれば綺麗な水「諏訪湖浄化」であります。ブナの植林は僅かであっても山の整備ができ、諏訪湖浄化に貢献できたことは事実です。地域に貢献した部分は中学生の植林体験であり将来、山に関心が向けられるものと期待しています。

ブナのイメージは、保水力や浄化作用など誰からも好感を持たれております。広い山林が確保され、植林の機会が与えられれば、かなりの人たちが参加するものと考えます。その場所は山奥でも可能です。

ロータリーで長期事業を計画する時考慮するのは、地域のニーズに叶うかであります。ロータリーだけで長く続けたとしても、効果は限定的であり、ロータリーの為でしかありません。志を同じくする人たち「湖浄連」との連携は次のステップにつながると思います。

ロータリーが継続的に負担できる金額には限りがあり、従ってスケールの大きい事業はできません。エコークラブの横山さんの様に、人生活動として取組続けて行く人が居さえすれば、困難の克服は簡単と思えますが、毎年変わる委員会構成では簡単ではありません。人が変わっても継続可能にするには、その内容の他に使命感や責任感などを共有しなければなりません。

現在、県や市町村が進めている「里山整備」は山に住む動物達を守り、災害機能の向上を図り、資産価値を高めます。木材価格の低迷で森林所有者は山の手入れを放棄し、国内の至る所で災害が発生しております。適正に手入れをされた森林では直径で2.7倍の太さとなり、体積は7倍になります。幹の根は枝の張る大きさまで広がり、土砂崩れを防ぎます。諏訪湖浄化に

は、実効性があり有望な事業ではありません。

しかし、この事業は市町村や県の指導の下に、森林組合などが実施するもので、RC等が直接関わることはできません。ロータリーで出来ることは、森林所有者に整備費の99%が補助金で賄うことができる、この制度を利用して整備事業を始めることを決断させることであります。ロータリーで多少の手伝いは必要としますが、クラブを挙げてと云うほどのことはありません。

今後進める里山整備構想

1案 現在の区域周辺を整備し、今まで通り継続する。

水源地であり、ブナ等が育つ環境である。小さな河川もあり、植林の条件には適している。一帯がブナや落葉樹で覆われた様を思い浮かべただけで楽しくなります。

既存する樹木の伐採・片付けに30万円程度掛かると思われますが、ボランティアの活用も可能。植林の費用は従来の事業費負担程度。居住地区から離れており、住民の目に入りにくいのが難点です。

2案 植林はせず、道路沿いの山林の手入れ

山林所有者の協力は得られやすく、雑草や下層木、枯れ枝の撤去は子供たち共容易にできる。所有者の里山に立てする意識はたかまり、道路沿いが綺麗になれば散策も可能。

搬出した樹木を運搬する費用程度で、用具をRCで揃えるかどうかで多少の負担が生じます。撤去した木々は焼却場で受け取ると思われ、難点らしき事は見当らない。

3案 岩村会員の所有する山林を含め数ヘクタールの山林を借りて、「みんなの森」、或いは「ロータリーの森」を計画する

言い換えれば森林公園構想でもあり、行政、森林所有者、協賛者、設計者など多くの協力者が必要になります。常緑樹の森、落葉樹の森、紅葉樹森、花樹の森、等等、綺麗に整備された森林は、私たちに安らぎを与えるばかりではなく、環境保護や野生動物たちの為にもなります。住民が四季を通じて憩える処を描いております。

ロータリーの英断が必要になります、行政の協力と賛同者を確保し、何よりも住民の協力を得ることが先決です。

